

ミニヨコ2009運営市民120人のヒヤリング検証

「ミニヨコハマシティ～19才以下のつくるまち」の3年目は横浜を超えて、全国へ世界へとつながりを見せる大きなものとなった。今回のいちばんの特徴は、大使館の誘致。ユーロならぬミニロという新しい通貨の導入。都筑区から横浜の中心、中区での開催となり、横浜らしさ、国際色を意識したまちづくりになったと思う。横浜親善大使コンテスト(横浜を語れるこども代表をつくる)などもこどもたちの中から出てきたもの。U-19シンポには他のまち(ドイツも含む、全体)のこどもたちとの交流の場にもなった。

下記の個々の希望の仕事以外にまちで必要な機能として、TMCで運営された仕事リスト

市民局(受付)/学校(全員が必ず受講するミニヨコのルール)/銀行/保育園(ちいさいこどものため)/シャボンス(皿洗い)/ミニヨコ郵便局/病院(お休み所)/選挙管理委員会/ミニヨコ大人ツアーガイド(大人にミニヨコを案内する)/ホームセンター/水道局/こどもプリマの店員/イベント事務所/両替所/市役所広報局印刷所/宝くじ(市民の20ミニオン寄附で1枚渡す)

No	学年・構成 (昨年の職業)	当初希望	ヒヤリング	話し合い後→本番のようす
1 2 3 4	中1男子(ベロタクシー) 小学3年男子(迷路をやるといってできなかった) 小学5年2人女子初参加	大きく場所をとって、大々的にお化け屋敷をやりたい。(1. 2) ケーキやさんとお化け屋敷を一緒にやりたい。お化け屋敷を出たらケーキレストラン?(3. 4)	ケーキやさんをやりたいといってきた子は、戸塚で行なった音楽プロジェクトから参加している元気な女の子とその友達。その友達がケーキやさんをやりたいといっていたのだけれど、最終的に元気な女の子と男の子2人に押し切られ、ケーキやはなくなった。	恐怖のお化け写真館 お化け屋敷を体験したあと、心靈写真を撮ってあげる。お化け屋敷の中身は、空気砲で突然風がきたり、霧吹きで水がかかったり、床にベットがあり誰かがもぞもぞ動いていたり。心靈写真は、こどもバイトがお化けとなって一緒にとるしくみ。実際に思っていたようにできなかったと、中学1年の男の子は家に帰って号泣していた。(スタッフのこどもです)でも基本的に大盛況で大もうけしたようす。
5	大学1年女子(ハローワーク)を中心に多くのTMCが交代でサポート	最初のミニヨコからハローワークを担当した彼女はミニヨコの最年長となり、まち全体のしくみを考えながら、ハローワークを担当していきたいとのこと。	今回はいつもより、多くのこどもたちが訪れるため、公共の仕事の捻出、スムーズに動く仕組みを考えていく会議をかさねた。	外国人(ドイツから)もくるため、ハローワークという日本語でなく、世界的に通じるジョブセンターと名前を変更。ジョブセンターでは、まんべんなく仕事をしてもらいたいため、まずイチバン最初にまちに来たら、公共の仕事をし、その後好きな仕事についてもらうことにした。公共の仕事を幅広く工夫、充実させたことで混乱はなかった。
6 7	中3女子2人(ゴミステーション)	最初はTMCとしてまち全体のしくみを考えアイデアだしをするメンバーとして積極的に参加。	昨年も担当した2人だったので、ゴミステーションを担当することに。	今回は、横浜市資源循環局に機材を借りることになった。市役所が彼女たちの近所ではなかったため、市役所担当者との交流は残念ながらなかった。真横はシャボンス(食器洗いセンター)だったため、それらも手伝うことに。 今回は大使館を運営したため、横浜市以外の場所からのこどもたちのお店の出店がいくつもあったが、ゴミの分別方法が行政により違う

10 11 12	中学2年男子1人 (MHK、鉄道博物館)	今年は、MHK(放送局)、こども休憩所などを希望していた。	イラストレーターを扱える数少ないこどもとして、ベロタクシーのラッピングデザインも担当。 ひとりで2つのプロジェクトをやることはなかなか難しく、最終的にインターネット放送局を担当することに。	Y150大人のサポートを得て、ミニヨコ放送局(MHK)として、インターネット中継をし続けた。それはもちろんネット中継され、大人の待合場所でリアルタイムで見れるように放送された。アナウンサー役も努めた。 現在もアーカイブで残っている。 http://y150org.seesaa.net/article/125252281.html
13 14 15	中学生男子1人と小学生5年男子1人、女子1人 (大人のカフェ&大人の悩み相談室)	駄菓子やさんをやりたい。くじびきなどもあるお店。横浜ハーバーという店の名前も当初から決まっていた。	駄菓子やの絵を下記、くじびきなどを準備していたのだが、わたあめの機械を借りられることになったとき、わたあめ一本でやりたいと言い出した。	当日いろんな色のわたあめをやるはずだったが、大人側の手違いで、白1色に。バイトができる仕事増やすため、駄菓子の販売もすることになった。白1色では売れないのでは？」と話していたのだけど、大盛況。バイトに小さい子が多く、わたあめの機械まで手が届かなくて苦労したらしい。
16	小学3年男子 (警察)	射的やと去年もやった警察を両方やりたい。	射的のまとなるものをみんなに呼びかけることになった。	当日これない時間があるということだったが、お店をその時間開けないのは、困るから方法だけきいておいて、お店をあげようということになったのだが、実際はそうはいかず、けっこう休業時間が多くなってしまった。しかし射的やさんは大盛況でとくに男の子には人気だった。
17 18 19	小学5年女子1人(大工)小学5年女子1人小学3年女子1人(アイスクリームや)	ゲームをして、それにより、なにからおやつのようなものをもらえるようなお店が作りたい。	お店の計画をどんどん出していった。夏だから冷たいものがいいという話になり、流しそうめんがいいが、大棧橋ホールでは、水が流せないため、不可能。次にビニールプールにうどんを浮かべて釣る「うどんつり」はどうかと検討。	スナックフィッシングのお店になった。ビニールプール中のくじを釣り、買い物をするお店。パン耳スナック(お砂糖のかかった)、フレンチトースト、餃子の皮にチーズを乗せて焼いたもの。すこし高くなるが、フィッシングしなくてもミニヨンで買えたので、フィッシングしない人も多かったらしい。スナックは好評だった。最初はお店の位置やレイアウトが目立たず、あまり売れなかったらしいが、すぐに多くのお客さんが来るようになった。
20 21	小学4年男子、中学3年女子 (兄弟、新規)	鉄道をやりたい。線路をひいて電車を走らせた。	昨年までの交通費機関、リヤカーバス、ベロタクシーを見せたら、線路はむずかしいので、車をつくってタクシーでもいい。	ベロタクシーに交渉し、会場にも交渉し、本物のベロタクシーをミニヨコのまちに入れることができた。しかし、会場の回遊は難しく、直線での路線となった。
22	小学校4年女子 新規	なにがおもしろいことがやりたい。	広告代理店。イラストを描いたハガキをうったりすることになった。	依頼されて、お店の看板をかくこともあった。イラストを描いたハガキは外国人にも人気だった。
23	小学5年男子 (絵描き)	絵を描く仕事をしたい。	いろんな絵を描いて売りたい。	上記の子と一緒にの場所で、絵を描く仕事をすることが多い、いろんな絵を描いて売った。

24 ～ 33	中学1年女子7人、男子2人	和のテイストのお店を開きたい。	1つのお店にオーナー3人までということだったが、3つのお店にわかれるので、できれば、近くにおいてほしい。 バイトがたくさんきたときの役割やさばきかたのシュミレーションをしていた。	最終的には、アイスのお店、白玉のお店、雑貨(ミサンガ、へやアクセサリー)のお店の3店舗になった。ドイツからのおきゃくさんも来るということで「和風」を意識したお店です。全員、ゆかたを着ての販売となった。
34 ～ 37	小学4年女子4人(アイスや、新規)	最初は不明	食べ物やさんをやるかどうか、など迷いに迷っていた。ネイルやさんがないと聞いて、ネイルと写真館をすることに。	小さい子だけでの出店となったが、心配をよそに、堂々準備していた。写真館は写真家が本物の機材でサポートしてくれた。写真はきょうふのおばけ写真館と合同で場所をもらった。
38～ 50	高校2年女子1人その後友人12人(新規)	最初は1人の高校生(去年はハローワーク)のみ。しゅうまいの入ったシューマイ饅をつくりたいと希望。人手やお店が足りなくなり、友だちに助っ人を頼むことに。	自分の高校に持ち帰って、はなしをしたら多くの参加したい人が得られた。しかし、オーナーは一店舗3人と決められていたため、交代で公共施設を手伝うことになった。	シウマイマンは崎陽軒がすでに同じ名前販売していることから(彼女たちはそのことを知らなかった)、ミニヨコマンとして販売。中区民センターで「まちの先生」に登録している料理関係の方を探してもらい、管理栄養士に事前指導を受けた。事前に水道局、市民局、市役所、銀行など多くの公共施設が、ミニミニ軒従業員によって担当し、まかなわれた。
51 52	小学5年女子2人(カフェ)	おにぎりやさんがやりたい。	おにぎりは衛生上難しいため、NG。さてどうしようかと何回か相談し、たきこみごはんを型抜きでぬいてだすことに。	富山の美味しいお米を協賛してもらい、炊き込みご飯を型抜きで抜いて、おすしのようにし、鮭のフレークをかける「たきこみ寿司」のお店を開店。人気を博した。
53	高校2年生男子1人(新規)	ナポリタンのお店を開きたい。	ナポリタンのお店をやりたいが、どうつくるかわからない、ということで大人スタッフのサポートにはいってもらうことに。	日本ナポリタン学会のサポートを受け、食材もカゴメとニッポンにもらい、まかなった。大人気のお店となり、大人スタッフのまかないにもナポリタンを出してくれた。大人スタッフが充実しているお店だったため、カレーもプラスで作ってもらった。
54～ 58	小学4年生5人	クッキーにチョコをかけたものを売りたい。	クッキーにチョコでデコレーションして売りたい。バイトをたくさん雇うために、クッキー工場にしては？と大人が提案。試行錯誤しながら準備した。	かわいらしいおそろいのエプロン、スカーフで、お店の演出もこだわっていた。ただ、保護者の方とのやり取りが多くなり(後半)こどもたちの本当の意思なのかなと思える場面もあった。そうでないといいが。当日はバイトをうまく使えなくて苦労したようす。この店に限らず、年齢的に大きい子でないと、人を雇うという行為は難しいようだ。
59 60	小学3年生男子、小学5年男子	ゲームセンターがやりたい。兄弟なのだけれど、2人ともゲームセンターがやりたいが、別々にやりたいとのこと	いろいろ迷って1人は銀行をやることに。もう一人はお化け屋敷チームにはいった。	銀行をTMCのメンバーと一緒にお札を切るなどの準備から行なった。

61～ 100	中学1年から大 学1年までのTM Cメンバー	TMCのメンバーは公共の施設やイ ベントを担当することになった。	TMCのメンバーはそれぞれが、担当を決 め、銀行や市役所などを交代で担当した。	
100 ～ 120	大使館	他のこどものまちには事前にコンサ ルシートを使って調整。		